

市役所が目指す組織像

市民に信頼され、
市民の役に立つ市役所

市職員が目指す職員像

- ◆市民の中に入って、地域の課題を見つけ、市民とともに考え、解決に向け積極的に行動する職員
- ◆職員一人ひとりが、専門性や得意分野を持ち、自らの特性も最大限に発揮し、市民の信頼に応える職員
- ◆社会情勢の変化に即応した改革意識を持ち、仕事への情熱と柔軟な思考のもと、市役所と仕事を変革できる職員

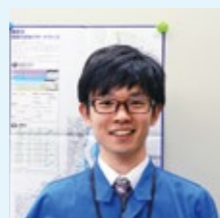
市役所の役割は、市民の皆さん一人ひとりに「住んでよかった」、「これからも住み続けたい」と感じていただけるよう、生活や仕事などに関わるさまざまな分野で、条件や環境を整えることです。

市役所で働く職員の仕事の原点は、「市民の皆さんの役に立ちたい」、「もっと元氣な街にしたい」という思いであり、この思いこそが、市民の皆さんと市役所をつなぐ「絆」であるとと考えています。

地域で今、何が起きているのか、市民の皆さんは何を望んでおられるのかを常に考え把握し、地域の抱えるさまざまな課題の解決に向けて市民の皆さんとともに知恵を絞り、汗をかくことができる人材を求めています（詳細は16ページ）。

さまざまな分野で頑張る若手職員の声を集めました。
子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまち舞鶴を一緒につくりませんか？

あらゆる災害を想定して行動を起こし続ける



菊本 雄紀 (25)
危機管理・防災課

あらゆる災害を想定した緊急時の体制整備や市民の皆さんに防災意識を高めてもらう啓発活動が私の仕事です。災害が起こったときだけでなく、普段から立ち止まることなく活動が続けることの大切さを痛感しています。市役所では、市民生活を支えるため、産業の振興や福祉、教育、危機管理など幅広い分野の仕事があります。皆さんが持っている強みを活かせる職場が必ずあります。皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



都会に出た子ども達がUターンしたくなるまちに



増森 愛 (26)
子ども支援課

障害のある子どもを支援するための福祉サービスや児童手当の受給手続きなどの窓口業務を担当しています。「ありがとう」の言葉をいただいたとき、何ものにも代えがたい喜びとやりがいを感じます。女性が働きやすいまち、子育てをしたいまち、家族で心豊かに過ごせるまち、このようなまちづくりに携わっていきたくと思っています。住んでよかった、これからも住み続けたいまち「舞鶴」を目指し、ともに力を合わせて頑張りましょう。

舞鶴の歴史と文化を活かしたまちづくり



松崎 健太 (25)
文化庁派遣

採用後は、観光商業課で舞鶴各地での映画口ケやテレビ撮影の支援をしていました。舞鶴を全国に発信し、観光誘客や地域活性化につなげる仕事でした。現在は、文化庁（東京都）に派遣され、文化財や博物館に関する業務を行っています。本市でも引揚記念館収蔵資料のユネスコ世界記憶遺産登録を目指しており、歴史遺産を活用したまちづくりに貢献できればと思っています。それぞれが得意分野を活かし、魅力ある舞鶴を一緒に目指しましょう。



安心して安全な水道水の安定供給を目指して



奥村 智輝 (23)
水道建設課

市民の皆さんに安心して安全な水を安定して供給するため、上水道の維持管理や施設更新など水道事業の工事に係る仕事をしています。大型の重機が動く工事現場の監督も行うので、十分に気を付けなければなりません。「お疲れ様です。いつもありがとう」の声を聞くと、この仕事を選んで本当によかったと実感します。これからも、土木技術のスキルアップに努めます。舞鶴がより住みやすいまちになるよう、一緒に笑顔で頑張りましょう。